

冬に区別する

エノキとケヤキ、ムクノキ

写真のように、このニレ科の3種の樹木はいずれも大木になり、遠方からでもよく目立ちます。一見同じように見えますが、よく見ると差があります。3種の生態や、人や動物とのかかわりにも関心を持つと面白さが見えてきます。



ケヤキ



エノキ

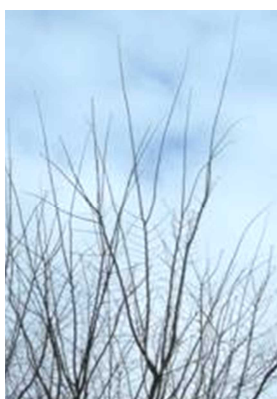


ムクノキ

樹形と枝打ち

ケヤキは、樹冠が扇を開いたような形になります。枝の分岐は少なく、小枝は長くなります。分岐の角度も小さいため、箒状になるのです。

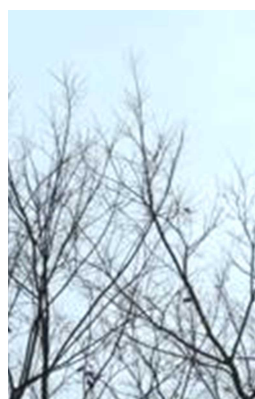
エノキは、丸くこんもりした樹冠になります。すぐ枝分かれするため枝が短く、分岐の角度も60度くらいと直角に近いので、枝が混むのです。



ケヤキ



エノキ



ムクノキ

ムクノキは、この中間で枝は直線的に伸びていないのでエノキのようにみえますが、分岐が少ないので枝先はケヤキのようです。

樹皮

エノキは、樹皮が灰褐色でザラザラするが割れ目がなく、ケヤキは灰白色で太くなると大きな片状に剥がれるようになります。また、ムクノキは灰褐色で滑らかです。

葉形と葉脈の差

写真は葉の裏面ですが、形、葉脈の分れ方や本数に違いがみられます。

葉の触感

ムクノキの葉は裏面に細かい剛毛があり、触るとザラザラします。紙ヤスリとしても利用されていました。



ケヤキ ムクノキ エノキ

利用する動物

エノキとムクノキは甘い実をつけるため、鳥が食べて種を散布します。古代の人類も食べていました。ケヤキにルイスオトシブミ、ムクノキにベーツヒラタカミキリ、エノキにオオムラサキというように、これらの木に依存する昆虫もいます。